

町長から行政報告をします

※一部抜粋

双葉8町村、福島県と国の意見交換会等

●9月22日
長期避難者等の生活拠点の検討のための協議会が開催され、国・県および受入自治体（福島市、会津若松市、郡山市、いわき市、二本松市）、避難元自治体とで町外コミュニティについて協議されました。

●9月26日
平野復興大臣が来訪し、現在の浪江町の状況、復興計画を通じた今後の方向性などについて意見交換を行いました。平野大臣からは、国としてもインフラ整備を含め、町の復興を支援していきたいとのコメントをいただきました。

●10月10日
復興庁 今野副大臣および金子政務官が来訪し、就任挨拶を含めた意見交換を行いました。

●10月11日
原子力災害現地対策本部 松宮本部長（経済産業副大臣）が来訪し、平成24年3月末時点の線量マップをもとに、区域の見直しに関する議論（キックオフ）を行いました。

●10月24日
樽床総務大臣が来訪し、就任挨拶と二重住民登録票などについての意見交換を行いました。

●11月5日
長浜環境大臣、園田副大臣が来訪し、就任挨拶と除染の外部

委託、瓦礫処理などについて意見交換を行いました。

●11月28日
第2回双葉郡8町村長と知事との協議の場が開催され、中間貯蔵施設における地質調査の実施について意見交換を行いました。榎葉町長、大熊町長から環境省に対し質問が投げかけられ、その回答を得ることを前提として、地質調査に応じることを決定しました。

浪江町復興計画

本年4月に策定した「浪江町復興ビジョン」に掲げた復興についての理念や目標に基づき、復興までの道筋および施策の具体的な取組みや時期をまとめた「浪江町復興計画(第1次)」を、10月12日の浪江町議会臨時会での議決を経て決定し、10月下旬には各世帯へ計画書等を配布しました。

住民説明会

「浪江町復興計画(第1次)」を策定したことにより、町としての復興への考え方を町民の方々へご説明するため、10月22日郡山市ビックパレットふくしまをスタートに、11月18日までの間、県内外14カ所で開催の説明会を実施し、約4,720人の方々にご参加いただきました。

また、説明会では、国の担当省庁から「区域の見直し」「新しい賠償基準」「除染の進め方」について説明されました。今後の復興計画推進にあたっては、多くの方からいただいたご意見を十分に考慮していきたいと考えています。

なお、各会場での質疑等は、町ホームページに掲載しています。

浪江町表彰式

文化の日の11月3日、第40回浪江町功労者表彰式を2年振りに二本松市内で開催しました。特別功労表彰は10名、功労表彰は19名、善行表彰は61名、総計90名の方々に、賞状および記念品を贈呈し、ご功績を讃えました。

浪江町役場二本松事務所の整備

浪江町役場二本松事務所として借用していた福島県男女共生センターの施設借用期間満了に伴い、10月1日から新庁舎での業務をスタートしました。

一定程度駐車場面積を確保し、庁舎内には来庁者が目的の部署に行きやすくするよう色分けした課名表示の設置や、町民の方々が交流できるスペースも整備しました。

今後、浪江町の復旧・復興に

町民交流事業

9月9日に相馬市、9月23日に郡山市のほか伊達市、喜多方市、いわき市で、7しゃべり場を開催しました。また、定期交流会「集まっ会」を二本松市内で開催し、県内全体で約400名が参加され、多くの町民が絆を深めています。

県外での交流会は、9月1日に神奈川県で開催されたほか、岩手県、新潟県、群馬県、茨城県、大阪府などで開催され、約600名の方々が参加されました。

9月22日には、茨城県つくば市で原田直之氏による「相馬盆踊り」の歌に合わせた盆踊り、12月1日には千葉県柏市で添田哲平氏によるピアノ演奏に合わせ「花は咲く」などを合唱し、故郷への思いと町民の心が一つになりました。

警戒区域への一時立入り

マイカーによる5回目の一時立入りを、8月25日から10月13日まで計21回実施し、3,571世帯、8,893名の立入り

がありました。バスによる一時立入りは、9月27日から30日まで計3回実施し、122世帯、178名の立入りがありました。

沿岸地域一斉捜索

東日本大震災の発生から1年6カ月となった9月11日、福島県警、浪江消防署および浪江町消防団が、請戸川堤防沿いで行方不明者の特別捜索を実施しました。捜索には、56名が参加しました。

浪江町消防団秋季検閲式

10月7日、平成24年度浪江町消防団秋季検閲式を浪江中学校(二本松市)で挙行了しました。団員150名が参加し、厳粛に執り行うことができました。

浪江町除染計画の公表

除染特別地域の除染の進め方について国との協議・調整が整ったことから、11月21日に環境省が特別地域内除染実施計画を策定・公表しました。今後、国はこの計画に従って、浪江町の除染特別地域の除染を進めることとしています。

保育料助成

保育料助成金の支給は、4月から9月分の前分を10月に支給し、対象児童は、県内が52名、県外が40名です。今後も助成金の支給漏れがないよう対象者把握に努めます。

町民の健康管理

現在町では、定期健康診断やがん検診に加え、内部被ばく検査、甲状腺検査、積算線量計による外部被ばく線量測定などを実施しています。

内部被ばく検査は、11月末現在延べ10,438名、甲状腺検査は3,608名の方が検査を受けています。

これらの検査結果は、「健康管理手帳」へ記載し、健康管理に留意していただきたいと思えます。

特に、震災後の避難状況は、将来的な健康被害、医療補償の証となりえるものですので、健康管理手帳を活用いただき、記録の管理をお願いします。なお、甲状腺検査は、12月から検査対象を40歳以下まで拡大し実施しています。

内部被ばく検査、甲状腺検査とも県内外での検査体制はまだまだ不十分であることから、現在、恒久的な医療費の無料化とともに、これらの検査体制の確立について、強く国へ要望しています。

災害弔慰金

また、世帯の所得確認等、関連業務は引き続き対応することになるため、今後も避難先において適切な保育サービスが受けられるよう、対応してまいります。

災害弔慰金等の支給は、津波および地震により直接死亡された支給対象者が171名となっております。11月末現在、申出受理・支払件数は169件です。現在申出待ちが2件ありますが、申出書類等関係書類が提出されましたら、審査のうえ速やかに振込みます。

また、災害関連死に関する弔慰金は、現在、双葉地方災害弔慰金審査委員会、関連死の可否について審査をお願いしているところであり、11月末現在、申出受理件数が274件、うち審査件数が226件、うち認定件数が221件、支払件数が216件です。

教育行政

浪江町長杯

スポーツを通じて町民の絆と元気を取り戻そうと「浪江町長杯」の各種大会が9月16日開催のパークゴルフを皮切りに、全5種目が開催され、370名が参加しました。

県内外に避難している町民は、久しぶりに顔を合わせ、近況を話し合う等、終始和やかにプレーされました。

第6回市町村対抗福島県軟式野球大会

9月8日から県営あづま球場で開催されました。浪江町のチームは、選手はじめスタッフが一丸となって取り組んだ結果、準決勝戦まで進み、白河市に2対0で惜しくも敗れましたが、第3位という堂々の成績でした。

第24回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会

11月18日に白河市総合運動公園陸上競技場をスタートに開催されました。今年も「町の部入賞を継続させ、少しでも上位を狙う」意気込みで挑んだ大会の成績は、総合で33位、町の部で14位という成績で、選手たちの健闘を称える多くの声援が聞かれました。

浪江小運動会

10月13日、浪江小で2年ぶりに大運動会を開催しました。全児童数30名という少人数ですが、仮校舎の校庭では保護者と一緒の種目や浪江の名前を付けた種目を取り入れ、子どもたち全員と先生方で作り上げた運動会となりました。

浪江中「秋桜祭」

10月28日、浪江中が昨年に引き続き文化祭「秋桜祭」を開催しました。会場には、在校生の家族をはじめ、近隣の学校で学んでいる浪江中の生徒、兼務で離れてい

向けた拠点として機能を高め、さらには停滞していた行政機能を復活させ、より一層町民の方々のサービスの質の向上に努めていきたいと考えています。

9月9日に相馬市、9月23日に郡山市のほか伊達市、喜多方市、いわき市で、7しゃべり場を開催しました。また、定期交流会「集まっ会」を二本松市内で開催し、県内全体で約400名が参加され、多くの町民が絆を深めています。

9月22日には、茨城県つくば市で原田直之氏による「相馬盆踊り」の歌に合わせた盆踊り、12月1日には千葉県柏市で添田哲平氏によるピアノ演奏に合わせ「花は咲く」などを合唱し、故郷への思いと町民の心が一つになりました。

警戒区域への一時立入り

マイカーによる5回目の一時立入りを、8月25日から10月13日まで計21回実施し、3,571世帯、8,893名の立入り

る教職員が多数駆け付け、一緒に校歌を歌うなど印象深い文化祭となり、学校の歴史に意義ある1ページを加えました。

地域伝統芸能全国大会

10月27日、28日、郡山市民文化センターで開催された「地域伝統芸能全国大会福島大会ふるさとの祭2012」で、東日本大震災で衣装や用具等に被害が生じたにもかかわらず、地域伝統芸能・田植踊りの活動を再開し、被災者に復興への活力を与えたとして、請戸芸能保存会が高円宮殿下記念地域伝統芸能特別賞を受賞しました。

学習成果発表

11月23日、24日、JR二本松駅前周辺を会場に開かれた「復興なみえ町十日市祭」で、浪江小と浪江中の子どもたちが学習成果などを発表しました。

メイン会場の二本松市市民交流センターには、小・中学生の習字や絵、工作、大堀相馬焼などの作品が展示されて来場者の関心を集めました。

また、23日には交流センター内の特設ステージで、浪江小全校児童による創作劇とよさこい踊り、代表者による「浪江町復興への思いの発表」、浪江中1・2年生によるよさこい踊りと浪江町立の3つの中学校への思いを添えながら、それぞれの校歌などを合唱しました。

子どもたちの思いや願いのこもった演技・発表は、避難生活を続ける人々に一筋の希望と励ましを与えたものとなりました。